

## 第33回市民ふれあいトークー地域力を活かすまちづくりー

日時 平成23年8月3日 18:30~20:00

場所 玉島黒崎公民館

### 要約版

《市長》

皆様こんばんは。夕方のお忙しい夕ご飯時に、多くの皆様に市民ふれあいトークにお集まりいただきまして、心から感謝を申し上げます。

この市民ふれあいトークは、中学校区の公民館に於きまして、その時々市の情勢とか、その地区に関する事とか、市全体の課題などについてご説明を申し上げまして、皆様からご意見を頂いたり、ご質問を頂いたり、意見交換をしたりする方式で進めさせて頂いているものでございます。今日は8時までと思っておりますけれど、最初、何点か今の大きな市の課題、玉島地区におけるいくつかの市の事業などについて、少しご説明を申し上げまして意見交換をさせて頂きたいと思っております。

玉島地区のハザードマップを持って来たんですけど、その前に、今倉敷市から東日本に一生懸命支援を3月以降いたしておりますので、その概要について少しお話を申し上げたいと思います。全国各地から救援活動に行っておりますけれど、市からも1週間から2週間交代ぐらいで、現地の岩手県、宮城県、福島県この3つの県の中の11の市と3つの町に職員が、実際に行き帰ってくる人数を計算しまして、約200名がこれまで行って活動しています。その中には、市民の皆様から頂いており、7月も夏用の服を皆様をお願いをいたしまして、現地に運び、約1週間の間に、約1万枚の夏用の服が集まり倉敷市がずっと支援をしております岩手県の大船渡市、陸前高田市、原発の関係で福島から町ごと全部、埼玉に避難されております二葉町という所がございます。テレビにも出ておりますけれど、そこが埼玉の高校に、全部役場も町民の皆さんも避難されております。そこに3,000枚ほど持って行くことでのお手伝いや、それから倉敷市が大規模に展開しましたが、宮城県の松島でございます。こちらの災害のゴミを倉敷市が全部引き受けることになり、職員が約2ヶ月駐在し、一応2ヵ月半ほどぐらいで全部撤去しまして戻って来たことなどがございます。

もう1つ倉敷市からの支援で非常に大きなことは、倉敷市民の皆様が、現地で活動していただける仕組みを作っております。岩手県の遠野市に倉敷市が元々市の活動をする拠点を置いておりました。そこにある時期から市民の皆さんが、現地でボランティア活動して頂けるように、公民館を1つ借り上げてまして毎週バスで往復しております。そこから沿岸部の大船渡とか陸前高田に活動に行き頂けるというのを4月からしてまして、約300名近くの市民の皆様が現地で活動して頂いている状況となっております。まだまだ、全国各地からの支援が必要であると思っておりますので、引き続きがんばってまいりたいと思っております。

一方で、現地から倉敷市にも、主に福島県の方が多い訳ですけど、市営住宅とか、公営住宅に今年8月まで予約が入っておりますものも含めて、70名近くの方が、こちらに避難される予定になっております。こちらに対しての支援もしっかりやって行きたいと思っております。

一方で我々の倉敷市の防災がどうなっているかが、今日の大変多くの皆様からご質問を頂いている点でございますので、最初にご説明申し上げたいと思います。

この防災津波ハザードマップが、各ご家庭に3年前にお配りをさせて頂いております。その中にこういうふうに各地区の地図などがあり、どのくらい浸水するかが書いてあるわけですが、現状を申しますと、今の津波の想定は、東南海、南海地震が、2つ起こりました時に、倉敷市の沿岸部にどのくらい津波が来るかの想定です。今の計算では、この青い所が約2～3メートルぐらいの浸水になるであろう地区です。ここが宝亀の堤防の辺りで、この緑の所は大体1メートル、南浦・沙美の海岸は1メートル位ではないかという色分けになっています。計算上は、大きな地震が起こりましてから、起こる場所が高知とか、和歌山になりますので、来るまでに淡路島も通りますので、時間がかかります。何回も往復してきますので、倉敷市の沿岸部には2時間半してから、この色のついている所に、津波と申しますか、浸水域が出てくると、計算上なっているということでございます。

今回の東日本の災害を受けて、国でも浸水の見直しをすることになっておりますが、年内いっぱいとか、年度内かかると話が来たものですので、あんまり国ばかり待っていたのではいかんのではないかという事になり、倉敷市では今独自に、南浦とか黒崎中学校、玉島南小学校と避難場所になっているんですけど、特に沿岸部の避難場所について防災の職員が全部回って、今2メートル浸水することになっているけれど、倍来たらその避難場所の体育館はどうなるかとか、今標高が8メートルだから大丈夫だとか、そういうチェックをしております。大体7月中ぐらいに、一通り調べをしたと言っておりますので、もう直ぐ報告が上がってくると思っておりますが、8月中位には、皆さんに新聞などを通じて、何処の避難所は、例えば標高が0メートルくらいなので、今以上来たらここは使わないで、2時間半ぐらいは時間がありますから、もっとこっちの山に逃げて下さいと言いつつ見直しを進めているのが、市の防災対策になっております。

それから、ご質問でもかなり頂いておりましたが、特に平成16年の台風災害以降に、玉島地区の中で、市民の皆様が言われておったのは、宝亀堤防が非常に心配だ、この小原の漁港の所は大丈夫なのかというお話を頂きました。確かに宝亀の分も、裏まで水が入って、皆様もご存知だと思いますが、少し崩れたりしたこともありましたので、その後の市の状況を申し上げますと、まず、こちらに海水が越波してきて、乗っかって内側から土砂が取れて崩れて、ここから堤防が崩れるという状況が無いように、こちらの裏側は、全部、災害対策事業を活用しまして、宝亀の堤防の裏側については、全部修復をいたし終わっております。

それから、ご存知のように、こちらのこの中には書いていないんですけども、この宝亀の堤防の海側の所に、専門用語で「離岸堤」と言いますが、防波堤を海の直ぐ前じゃなくて、離れた所に今5本、県と合わせまして造り終わっております。県と市で分担がありまして、しておりますのと、この勇崎地区の堤防、こちらの小原の漁港の南側の堤防等は以前よりも数メートル位嵩上げております。宝亀堤防自体は高さが16号台風の時の最高に来た潮位よりも約2.5メートル、上の所まで堤防が来るように出来ておりますので、通常で言えば大丈夫なようになっています。この堤防は、出来まして約300年以上経っており、その間に何度も、昔は何度も決壊をしたことがあったことは、ご存知でいらっしゃると思いますが、その度ごとに修復をしてきております。東日本の引き合いに出すのもどうかと思うんですけども、東日本でも比較的最近造りましたすごく高く細い堤防などは、わりと今回のような威力の津波の時には壊れていると報告が来ており、古い訳ですけどもその都度直して、古いだけあって地面が地に付いていると、国は言っている

んですけれど、今のような状況で定期的に修復をしていけば、大丈夫であろうと考えております。

それから沙美の地区、南浦の地区につきましては、今浸水に関する解析をいたしております。大規模な堤防をこしらえるという状況にはならないような今の計算状況であります。ポンプの増強もしくは、高潮等の時には、仮設ポンプを早急に持ってこれるような方策などについて、まず検討するという状況でございます。全般として倉敷市の沿岸部、勿論この玉島だけではなくて児島も水島も、今で2メートルか3メートル位です。でもそれが来るまでには、最低でも1時間か2時間はかかると思いますので、基本的には高台に、もしくは高いしっかりした建物に、逃げて頂くという事が必要になってくると思いますので、今後の見直しの時にはそれを申し上げて行きたいと思っております。

この前10日前だったか1週間前だったか、台風が来たと思います。今年の台風6号でございますが、その時に市で新しく付けました防災の拡声器、スピーカーから今回は勿論避難勧告ではないんですけど、台風の情報について、練習で何回か使わないといけないと思いますので、告知のスピーカーをいたした訳でございますけど、その放送を聞かれたと思う人は？有難うございます。大体半分位ですね。今回は台風だったので、全市でスピーカーをしました。そうしましたら、割りと市の広報車が来て広報したのかなあという問い合わせもあったりしたんですけど、今回は市の公共施設に付けました拡声スピーカーで、防災の警告じゃなくて注意喚起をさせて頂きました。以前の台風16号が起こりました後に、市内の約350箇所に避難勧告が出来るようにスピーカーを、主に学校などの公共施設を中心として付けており、今回も活用いたしまして昼の12時半位に1回と、夕方の7時半位に1回放送いたしております。今後もその使い方を検討して行きたいと思っておりますが、毎月1日の日に、朝7時45分位と夕方に、小鳥のピヨピヨという声が聞こえると思うんですが、それを聞いたことがある方は？有難うございました。防災の日が、元々9月1日なんですけど、1日に音がちゃんと出るかも含めまして、実験を毎回してまして、朝7時45分と夕方の確か5時半だったと思うんですけど、5時半に鳥のピヨピヨというのをしております。機会があったらぜひ聞いていただければと思います。皆さんからお声を頂いて見直しをしたいと思っておりますのが、1つでございます。

また、防災の見直しにつきまして、是非とも皆さんと自主防災組織の皆さんをはじめ、意見交換をさせて頂ければと思っております。

それから、玉島の地域で大きな点が2つございまして、少しご報告をさせて頂きたいと思っております。これは玉島大橋の所、皆さんこの場所は16号の時に良くご存知でいらっしゃる災害ゴミを皆でこちらに持ってきてもらった場所でございます。そこを今年度中に市が、玉島みなと公園として整備をいたしております。港町玉島の活性化の一部になればということで、グランドゴルフとか、ゲートボールとか、芝生の部分等を造りました。全体で約2.2ヘクタールほどで、津波とかの災害が起こった時にここに非難するのは良くないと思うんですが、火事とか、その他の場合の防災機能として使える場所だと思っておりますので、今年度中に出来る予定となっております。通られた時には、是非使って頂いたりとか出来ればいいと思っております。

もう1つが、玉島の市民交流センターの玉島文化センターの建て替えの事業を今いたしております。近くに行かれたらお分かり頂けると思っておりますけれど、これ自体が玉島の市民交流センター、こちらが武道館、体育室になる予定です。文化センターの横の敷地にあり

ました公民館とか、武道館とかの施設はかなり年数が経っておりまして、一つずつ建て替えますと非常に場所も取りにくい、施設の維持管理上、お金が掛かるという事があり、全体のをいくつかの大きなものにまとめて建て替えることになっております。阿賀崎公園は、前はこちらに有ったんですけれど、こちらの南にずらし、芝生の公園にいたしております。玉島市民交流センターも今年度中には工事が出来る予定となっております、来年の4月オープンを目指してやっております。各地の建物でお金が増えるという訳ではない中で、少し工夫をしておりますのは、1つは太陽光発電の設備を入れてます。これまで無かったさっきも申しあげました阿賀崎公園の芝生化、なるべく緑の部分を取るようにはしておりますのと、形で玉島らしいということではしておりますのが、高瀬舟、北前船の玉島の港ですので、屋根の形状を少し波と言いますか、港町の形状の様な物にしておりますのが1つと、もう1つは桃の町玉島でございますので、全部建物が四角になったらどうかという意見も皆様から頂きまして、半分で恐縮なんですけど、桃の球面のつもりで、丸い所を是非とも玉島のセンターには入れたいと、そういう設計にしております。

もう一つこの建物の特徴としましては、玉島はお茶の町ということで、普通の市民交流センター・公民館とかには和室がある程度あるのですが、その和室でお茶会とかにも使って頂けるような、こちらの1階なんですけれども、仕様にいたしております。それでなかなか広大な公園とはいかないんですが、お茶席からこちらの阿賀崎公園の借景を少しは見て頂けるような配置にして、なかなか制限もあって恐縮なんですけど、玉島らしい市民交流センターをとということで考えております。以上、玉島地区の全般的なお話。

もう1点最後に倉敷市内の全般的なお話といたしましては、今年の冬を目処に倉敷駅の北側のチボリ公園の跡に新しい商業施設が来ることになっております。約800万人近くの方が来られるのではないかとされており、多くは県外から来られる方が随分出てくると思っております。倉敷のインターから倉敷の駅の北まで、かなり最初は混むのではないかと思っておりますが、駅の踏切を広げたり、市の道の所を広げたりという工事等もしており、少しでも混まないように出来ればという思いでやっている所でございます。それが今年の冬のお話でございます。市内の大きな話としては、今年の5月に水島の港、これは玉島のハーバーアイランドもあわせて、国からこの港全体は、日本国の港の中で集中的に今後力を入れていく港だと選ばれたのが一つ。

そしてそれに先立つ3月に、玉島ハーバーアイランドに、日本エアロフォージという飛行機の会社が来る事が決定いたしました。これは東の愛知県と我々倉敷市・岡山県の軍団、2つで競争いたしまして、約1年半位かけて誘致活動してきまして、倉敷市が安全だということ等もあったと伺っておりますが、こちらに来られることになりました。中島プロペラさんが来ている沖に入られますけれど、航空機産業は非常に裾野が広い産業に今後なっていくと思いますので、最初直ぐ大きくなる訳ではないんですけれど、工場の生産とか色々な部品とかに、いい影響が、倉敷市全体としては、出てくるはずではないかと思っておりますのでご報告を申しあげました。

話が長くなりまして恐縮ですが、最初全般的なお話をさせて頂きましたので、皆様から今のお話のご質問とか、ご意見とか、玉島の地域のもっとこういう部分を何とかしないとイケないのではないかとかご意見・ご提言を頂ければと思っております。よろしくお願いを申し上げます。

《参加者 A さん》

黒崎屋守の A といいます。昭和 24 年位だと思いますけれど、古老が無くなる前に、昭和 20 年でしたか 19 年でしたか南海地震があった時に、これで安心するなよと安政の時には唐船まで津波でいかれたんじゃないかと。考えて見ますと江戸時代にもう 1 回あった。その前にも大きいのがあったと、その当時は当然海だったから良かったのでしょうか、今のご説明で 3 メートル以上のものがまいますと、今のその青い土地以上に広い地域が冠水する訳ですね。考えて見ますと屋守は、ほとんど元浜を除けば大丈夫なような気がするんですけど、勇崎から柏島あたりはかなりなると思います。そういう意味で、高い箱物のご説明はありましたけれども、私は箱物よりもそういった広場というか高い所、玉島、柏島ですとタバコ産業の研究所の跡地とか、屋守ですと奥の方はいいですけど、南の方ですと桃源遊園、あそこも崖崩れの心配があるんですけど、そういうのを造ることが必要ではないかと思うんです。

もう 1 つ岡山県の全体の問題かも知れませんが、のんびりしている。先日の 6 号の台風の時に、瀬戸内市の避難勧告ですか、これに従った人はほとんどいなかったと。この辺の人もそういうことです。ある時、私、防災無線を付けてもらってはどうかという意見を出しました。そんなことは無いからいらんわというような、所謂土地の風習と言うか、習慣と言うか、あるんでそういう点は、市がもうちょっと PR していただかないといかん。先ほどから色々ご説明頂いたんですけども、本気度を知りたい。今後も 9 月までには出されるようですけども、そのことを今ここでお答えいただくことは無理だと思うんですけども、広報にそういったことをちゃんと載せて、PR してやっていただかないといかんと思うんです。

もう 1 つ、私ども寺谷地区は部落の北側と北西側の山が、山崩れの危険のハザードマップの中に入っているんです。平成 2 年か 3 年ごろだったと思うんですけど、支所産業課の課長さんに見ていただいて、ここがこれだけずれていると、30センチから60センチ位、幅、そうですね 20メートルぐらい、ずれた所があるんです。下の方は、私が小学校 4 年生ぐらいの時に、幅 10メートルぐらいずれて、水路へ落ちて私の家が水に浸かった事があるんです。その後、昭和 50 何年でしたか、私その時はいなかったんですけど、同じ所が崩れました。その後、地すべりがあったんで、課長さんに見て頂いたんですけど、私どももチェックしないのが悪いのかも知れません。そういった事が沢山、あのハザードマップを見る限りはあると思うんです。そういった事に対して、市はどのようなお考えで、やって頂けるのかをお願いしたいと思います。長くなりましたがお許しください。

《市長》

ありがとうございました。今おっしゃって下さったように、瀬戸内市で皆全然避難されなかったというのは、市長会議で席が隣だったんですけど言われてなかったんですけど、今回瀬戸内市では確か市内全体に、避難勧告を出されたように思います。倉敷市や他の市は、今回は出してないんですけど、今回皆様がテレビで見られました福島とか新潟の三条市はものすごい事になっておりますけれども、避難勧告の出し方についても、もっとこれまで以上に、早く出さないといけないと思っております。ご存知のように平成 16 年の災害の時には、随分遅くなってから避難勧告となってしまう、それではいけないと思いま

すので、早目早目から情報をまず出して、避難勧告を出さないといけないと思っておりますのと、今大変重要なことを言っていたんですが、ここに書いてあるこういう避難所は、全部おっしゃるとおり公共の分だけなんですよね。今まさに市でも考えておりますのが、民間の広い土地を避難が緊急の時には、市民が逃げてもらえるような場所として、あらかじめ確保しておく事が必要だと思っております、実は取り掛かったばかりなんですけれども、作陽大学が高台にございます。場所が違うんですけれども、ここら辺に水島では芸術科学大学があります。児島にはうちの市立短期大学もありまして、民間の土地で比較的広大な土地を今申し上げましたいくつかのものについては、すでに防災協定を3月の末くらいに結びまして、これまでは入れなかったんですけど、市民の皆様が逃げただけのような土地として、協定を結びました。まだ、地区ごとにさっき言って頂いたようなJ Tの跡の場所は、今そのままの更地です。そういう場所とか、民間のある程度広い場所とかについて今後検討を進めたいと思っておりますのと、もう一個は、食料とか水の確保ということで、これは既にかなり結んでいるんですけれども、マルナカさんとか、そういった大きなスーパーマーケットと食料の災害時の提供協定を結んでいる状況でございます。

一番重要なのは、市民の皆さんの逃げないといけないという意識が、まだ無いところが市内全域、非常に高いと思っております。今回、数値をいくつか見てきたんですけど、自主防災組織を市としては是非ともつくっていただきたいということで、町内とかコミュニティさんをお願いしてるんですが、まだまだ市内全体、そうは言っても災害も大した事ないじゃろうという事で低い訳でございます。唯一非常に自主防災組織の組織率が高いのは、実は南浦地域でございまして、南浦地域は340所帯の内、ほとんどが自主防災組織の一員として連絡体制を作って頂いております、まだまだ他の地域では少ないような状況になっておりますので、今言われました広報を、市としては非常に危機意識をもってやっておるんですが、まだまだ市民の皆さんから、本当に危ないのかどうかという意識が、まだまだ高まらないような気がしてございまして、しっかり広報、それから自主防災組織などやっていきたいと思っております。大変有難うございました。

それから山崩れのハザードマップもございまして、岡山県と共同して山崩れが頻繁に起こる所について、民地の部分もかなりあると思っておりますので、それを直していただくのに一定の補助が出る仕組みとか県に言って作っていただきたいと思っております、さっき言われた地区とか気になるので後で教えて頂けますでしょうか、地図で。一遍になかなか出来ないんですが、順次頑張っって参りたいと思っております。有難うございました。

《参加者Bさん》

私、土木委員をさせてもらっているんですけど、昨年でしたか、県から委託された業者の方が来られ、一応見て帰られてます。その後の結果は聞いておりませんが、いずれ県のほうから、市へその結果を報告されるのではないかと思っております。

《市長》

それは寺谷地区とか、その地区のことですか。屋守地区のことですね、解りました。有難うございます。

《参加者さん》

私の部落は41戸ございまして、その内高齢者のみの家庭が、約27パーセント、高齢者と普通の若い方がいらっしゃるの37パーセント、独居老人は1戸だけです。高齢者の方がいらっしゃる所は30パーセント。昼間ですと、高齢者のみの方は車を運転されますので、まあいいと思うんですけど、高齢者と普通の人がおられる家庭については、昼間は高齢者だけになるんですね。先程の防災無線が、屋守地区の寺谷より奥は聞こえません。この沙美の山がありますし、南小から来るんだろうと思いますけれど、我々の所はほとんど聞こえません。自動車が放送して回ったのかなあという感じはしましたけれど、市長がおっしゃったんで、そうかなあと今思ったんですけども、私の家より下の家は聞こえないと思うんです。屋守地区は、郷戸とかあの辺りに付けて頂かないと、高齢者も多いですから全く聞こえないと思うんで、よろしく願いしたいと思います。

《市長》

また、確認をいたします。多分、玉島南小学校だけではないはずですので、大体500メートルおきくらいには付けておりますので。

《参加者さん》

いやあ。黒崎の町に仮にあるとしましても、ようけ山がありますから、山の奥に入ってまいりません。その点、特にお願いします。

《市長》

判りました。何処についているのか、確認したいと思いますので。有難うございます。

《参加者Cさん》

ひとつは、私どもの町内会では、平成24年度、来年度設置を目指しまして自主防災組織の検討を、今年度、役員会のレベルなんですけれども始めております。粗い案が出来たんで、本庁の防災危機管理室に相談に行ったりもしていました。我々の所は、町内会の内部組織として、独自に立ち上げるのではなくて、町内会をうまく機能させるような形で、作りたいと基本的には考えております。

もう一点、黒崎の第2公園がありまして、ここ数年、町内会をはじめ、近隣の町内会とも協力をしながら、トイレ設置の要望をしてくまして、有り難い事に今年の6月ぐらいに、既に工事が始まりまして、8月下旬ぐらいには完成するという事になっておりますので、どうも有り難うございました。

もう一点、黒崎第2公園の関係で言いますと、避難橋を造って欲しいという要望も併せてこの間、取り組んできております。本日、玉島支所長さんも来ておられますけれども、何時だったか日にちは失念したんですけども、玉島支所の建設課の担当者に問い合わせましたところ、今年度中には発注をかけると明確に私に言っていただきましたんで、これも早い時期に避難橋を掛けていただけるだろうと思っておりますので、この点についても、よろしく願いいたします。

それとも関わるんですけど、我々が津波とか災害が起こった時に、避難する場所というのは、沙美小学校と柏島の南小学校になってますので、災害が起こった時に海の方へ逃げる訳にはいきませんので、普通は南小に避難して行く事になるんですけど、黒崎から徒

歩で南小学校まで行こうとしますと、結構時間がかかるんです。健康な人たちはいいですけど、幼児とか高齢者だと行くには難儀をするという所にありますので、それぞれの町内の地域で避難場所を確保できないだろうかが非常に大事な課題だろうと思うんです。

町内会といたしましては、町内会の公会堂とか、黒崎第2公園も、第一次的な避難場所として利用したいなという事も有りますので、それ以外にも、先程屋守の方がおっしゃられました黒崎本村と妙見山という山があって、その裏側というのも変ですが、屋守の地区になっているわけです。ですから屋守の人も黒崎本村の人も逃げられるような山の天辺じゃなくてもいいですけども、30メートルとか50メートルくらいの所に土地を確保して、そこに逃げるようなことも、ひとつの選択肢ではないだろうかと感じております。

もう一点だけ、宝亀の土手の問題。市長おっしゃられましたけれども、私が本当にお願したいのは、色々説明されていますが、本当に宝亀の堤防はどのくらいの強度があって、どのくらいの災害に耐えるとか、そういう科学的な調査をやりたいです。予算措置をそれぞれとって頂くのは、非常に大事だと思うんですけども、本当に安心しようと思うと、そういうものが無いと安心できないなあということがありますので、是非専門家に調べてもらうとか、調べてもらってこれは非常に大変なこっちゃとなったら、倉敷市さんも困るかもしれませんけれど、そういうことも必要ではないかなと思ってますので、ひとつよろしくお願いたします。

《市長》

どうも有り難うございました。避難場所が少ないのではないかと、私も思っております。ここでいくと大きくは3ヶ所しかない訳で何かしらの高台の民間の土地の活用をしないといけないなあと思います。場所が遠いと言うこと、直ぐ行けるかどうかと言うこととか、逃げるのに水の近くを通るのは確かに良くないと思いますし、そういうことなども含めて、今回の見直しは今ある避難場所が大丈夫かどうかというのをやっておりますので、その後になると思いますが、しっかりやりたいと思います。

それから宝亀の堤防が大丈夫かどうかでございます。科学的な根拠を示すのはなかなか難しいと思うんですが、今回も復旧をする時に国の計算を使って災害復旧の分をして頂いております。引き合いに出すのも良くないんですけど、倉敷地区であれば、酒津の堤防は本当に大丈夫なのかとやっぱりよく言われるんです。それであちらもやっぱり、しばらく前に出来ております。あそこが切れたら倉敷の町はほとんど全部浸かってしまいます。それで、それぞれに国管理の川、それから県、今回災害復旧で国も関与して下さって、それごとに計算をして下さっておりますので、私は大丈夫だと思いますし、それから地震は勿論来ないとは、100%は言えません。直下型がないとも言えませんが、ただ倉敷市には断層は見つかって無いわけですので、基本的には確率は非常に低いのではないかと私は思っております。ただやっぱり今回みたいに、適宜ちゃんと補修をしないといけないと、今回の16号の時には、あったと思いますので、それをちゃんと、やって行きたいと思っております。科学的な根拠が示せないかどうかは、何とも難しいんですが、また市民の皆様が安心できる指標のようなものが、ないかどうか検討してみたいと思います。はい、どうも大変有り難うございます。

《参加者Dさん》

宝亀の防波堤というのは私ども色々な人から話を聞いているんですけど、ポンプ小屋の所が一番軟弱だと言われとるんですよ、もし切れるとしたらあそこが一番だろうと言われてます。そうしたらいくら補強しても何しても、追い付かないんじゃないかと。私が一番考えているのは、宝亀の防波堤の前を一文字まで産業埋め立てという構想は全く無いんですかねえ。それで比類の無い防波堤をついてもらう。それは平成17年ですかねえ、16年に以前の市長さんと色々、災害のことでお話して、こちら色々改善していただいたんですけど、その時は古市市長さんだったんですけども、宝亀の防波堤の前を抜本的な改革言うたら埋め立てしかないんですけど、そういう構想はないんですかと言うたら、それはもう市レベルではどうにもならんことですから、それはどうにもなりません、言われたんですけど、その後17年にOさんという方が通商産業省から出向されて来られて、その人があんと話がしたいから本庁に来てくれんかと言われて、4、5人の幹部役員と一緒にいったんです。その時に言われたのは、ええ事言われるけど、今のところ新町の人だけがそういう提案をされとるんで、それは拡大してもらった方がいいんですと言うのは、県も国もそこを埋め立てという構想はあるんだという話は聞いたんです。

《市長》

県も国もですか。

《参加者Dさん》

そういう話だったんです。だから私らも安心して、いずれここは。県では産廃を処理するような場所がないんで、宝亀の防波堤の前を狙っとるんだというような話が。

《市長》

こっちに産廃を持って来られたら、あまり良くないと思うんですが。

《参加者Dさん》

それで、そこを埋め立てしてもらって色々な堤防をついてもらえば、少々の台風が来ようが、地震が来ようが、堤防が切れることは無いと思うんですが、そういうことなんで。

《市長》

私は、今言われた案は初めて聞いたんです。今回この200メートル毎5本、離岸堤、沖にしてありますね。あれは県と市とで両方でやった分です。そういう構想があるんだしたら、その時県は言うはずです、市に。なので、それを見てもちょっとないんじゃないかと……。

《参加者Dさん》

Oさんが言うくらいだから、全く根のない話じゃないと私らは思ったんです。この地域の人が新町だけじゃなしに、玉島一帯の人が皆でそれを強調して、市なり県なり国にそういう陳情をしてもらえば、今すぐどうのこうのという問題じゃあないけれども、10年以後には何とか目鼻がつくんじゃあないか、しっかり運動してくださいというふうに。

《市長》

ここから、ここまでですよ。

《参加者Dさん》

そうですね。言われたのは、宝亀の防波堤の前に一文字の防波堤があります。そのこの所まで埋め立てという話だったんです。わざわざOさんが、ちょっと来て話をしてみして下さいようなことを言われたんだから、国は全くそういう構想がない訳じゃないんじゃないかなと思うんですけどね。

《市長》

Oさんは経済産業省から、出向されてたんです。もし埋め立てたら黒崎漁協がなくなっちゃうんじゃないかと。

《参加者Dさん》

その問題が一番ネックだと言われました。魚場がなくなるから。それをやらしてもらえれば、この辺りの浸水じゃ、冠水じゃ言うて大騒ぎする必要はないと思うんですけども。

《市長》

そうですね。考えとしては、ないことはないと思いますけれども。

《参加者Dさん》

シャーとやっちゃえば、その、今ブルーの所は全部回避されるんじゃないですか。私はあながち夢みたいな話じゃないと思うんです。新町の場合は、よその町内は何戸浸かったと言われるけど16年の16号、18号、23号台風と、その梅雨前の大雨で1年に4回も浸つとんです。

《市長》

ちょっとなんともお答えのしようがないんですが。

《参加者Dさん》

一生懸命、県や国に働きかけてもらったら、私はあながち夢じゃあないような気もするんですけど。

《市長》

もし、この埋め立てをしたら、同じ様な状況にはならないんでしょうか。埋め立てたこちらの辺りから。

《参加者Dさん》

そこはうんと土地をかさ上げして。今の宝亀の防波堤は修復しようがないと言われたんです。元々、土台がそういう構造になってないから、高くするとか、波返しを付けるとかというようなことは出来ませんと言われて、離岸堤をやりますと私は聞いたんです。

《市長》

なるほど、もし仮に、その話が現実になるとしたら、市だけで出来る話ではない訳ですけど、県とか、国とかが、そういう話を進めるという話になったら、防災のために全部埋め立てるのは難しいと思うんです。もしここを埋め立てたら、こちらが工業地帯になっていますけれど、何かしら工業的なものじゃないとお金が出ないはずなんです。多分〇さんは経済産業省だから言ったと思うんですけど、漁協はなくなっても経済産業省なり国から工業振興でお金が出て埋め立てて、ここに工業地帯が出来れば、国もお金を出せます、出せる可能性があると言ったんじゃないかと思うんですが。

《参加者Dさん》

そう言われてました。経済効果がものすごく上がると言って、だから県も乗り気になっとなんじやけど、市はどうかなと言われてましたね。

《市長》

ちょっと今度、県には聞いてみたいと思いますが、〇さんがいた頃ですから、4、5年前ですね。勿論直ぐ出来る話ではいずれにせよないと思いますが、どういう可能性があるのかも頭に入れながら国に行った時に話を出してみたいと思います。それが本当に実現できるとしたら、沿岸部が工業地帯になってもいいのかという住民の皆さんの考えを、漁協さんとかに、話が必要になるんじゃないかと思うんです。貴重なお話を頂きまして有難うございます。

《参加者Eさん》

岩谷町内会の会長をやっています。そのハザードマップの中に、南浦地区と沙美地区で、その間に岩谷地区というのがあるんですが、避難所というのは特に無くて、災害があったら南浦の小学校へ逃げてくださいよという事なんです、私の地区は180人位で、60歳以上が50パーセント、60歳以下が50パーセントで、年若い人が比較的多い所なんです。そういう所で、避難して下さいよと言われても、1.5キロくらいの所を歩いて行けと言われても難しい。台風16号の時に、主要地方道の倉敷―長浜―笠岡、県道ですね、両方とも決壊しました。所謂陸の孤島という形になったんですが、避難して下さいと言われても、それ位の距離があったら寸断された所に行くのは余計危険じゃないかということで、避難する所が無いんで、自分の家でとか公会堂があるんですが、一応公会堂は耐震補強とかはしてないんですが、比較的作りはいいんじゃないかということで、一応台風の時はそのを開放して、何人か避難したんですが、避難所を私の地区にも設置して欲しいなと思っているのです。

後はですね、比較的高い所なんで、津波の高さが例えば3メートルが来たら、大体半分ぐらいは浸かるとは思いますけれど、出来るものであれば、堤防のかさ上げと砂防河川の岩谷川があるんですけど、樋門がないんで、制御することができないんで、水が上がればそのまま冠水するので台風16号の時には、何世帯か床下浸水になりました。そういうこともやってもらいたいなという事が希望です。

《市長》

はい、有難うございました。岩谷川の砂防河川、これの管理は？

《参加者Eさん》

市が管理してます。

《市長》

砂防は元々国のやつを県管理になってるんですか。

《参加者Eさん》

維持管理を市がされていると思います。元々の管理というのは岡山県が管理して。全体的な抜本的なものは、県にお願いしなきゃいけないんですが、そういうことも含めて全体計画の中で、やっていただけたらと思っております。

《市長》

おっしゃるように、岩谷地区だけじゃないんですけど、児島にもあるんですけど、道が1本しかなくて両側が海と山と言う所で、現状で作られているこのハザードマップでは、公共施設が無い所は避難所が無い様になっているんですよ。今、会長さんが言われたように、小さな避難所と言うんですかね、そういう指定を今後、確かに基本的には公共施設の小学校とか中学校とかだと思うんですが、小さい分のですね、ただ、そのためには、多分さっきの公会堂、地区の公会堂ですね、そうですね。

《参加者Eさん》

行こうと思っても電気は切れている、道は寸断されている中で、誰が責任を取るんらと言われても困る。自分の身は自分で守れとなってしまうので、難しいなど。

《市長》

近い所に避難所があれば中学校とか小学校でも、毛布とか畳とかは用意しているのがありますから、そういうものとかを市と相談してから、市の施設じゃないけれども、本避難所より小規模になると思うんですけど、そういう考え方も必要かもしれないと今思いましたので、防災とも今後相談したいと思えます。岩谷だけじゃなくて、児島とかも色々検討しないとイケなくなると思えますが、お考え良く判りました。有難うございました。

《参加者Fさん》

岩谷の場合、三軒屋のへんに1つ確保して、土地を確保したら、市へ避難場所を建てて貰えばええんじや。要望せにゃあいけん。ちょっと高潮が来たら陸の孤島になってしまう。それだって本当に困るんですよ。

《参加者Gさん》

済みません。南浦のGと申しますけれども、南浦地区は、市または県民局に色々とお世話になっております。大変な浄財を使っただき有難うございます。一応色々やって頂

いたんですけど、もう1つこれも県の管轄なんですけど、今、浅口市から南浦へ入る、倉敷市へ入る、南浦という所は倉敷市の一番西の端なんです。そこへ入るととたんに、道が狭くなって道がくねくねくねくね曲がっとなです。あれももう何年も前から要望しとんですけど、なかなか出来ないので市からもしっかりと県民局へ訴えて、それとあんな曲がりくねった県道というのは、最近見当たらんので、奥はものすごく綺麗になっとなですけども、一番西の倉敷市の玄関がああいうことでは、市長さんの顔も立たんのんじゃないかなと思う。

それと、今防波堤の所、大変いいのが出来ており、もう南浦の防波堤が出来たら、岡山県下の沿岸部でも一番いいのが出来る。7年ほど前から色々試行錯誤しまして、今第1期工事が出来たんです。まあ5年間の内に出来るという事ですけど、これは5年、6年経っても完成していただけますように県にお願いしていただいたら、強力に自分達としたら機会あるごとに、要望はしておりますんですけど、市長さんの顔の広さで、ひとつよろしく願います。

《市長》

有難うございます。おっしゃるように、道がくねくねしております。市と市の境なので県の管轄の分がかなりあり、市から県にちゃんと言いたいと思っております。市境の部分で県からしっかり事業をしてもらって、いずれの地区も、さっき岩屋の会長さんも言われたように、境の所、岩屋もちょうどその真ん中になりますし、やっぱり境の所というのはなかなか、どっちがやるのかという話もあったりする地区でもあるので、より気を付けていきたいと思いました。有難うございます。

《参加者Hさん》

屋守のHです。今日のテーマが地域力を活かすということで、地域の課題につきまして、ずっと倉敷市にいろいろお願いしたりしてきたつもりなんですけど、非常に対応とか取り組みに不満を持っているんです。具体的に申し上げますと、屋守の入り口に置かれている廃船ですが、昭和19年から本件解決の為に、市役所の関係部署に再三、地域を挙げてお願いしているにもかかわらず、早く言えば市は逃げの一手としか我々は受け止めておりませんので、その辺について、首長として、方向性を出してもらって、協力し合って納得しあってフィードバックしあってやっていかなければならないと思っておりますので、是非この席で、いいか悪いかわかりませんが、我々の課題についての、もう少し真摯に取り組んでいただきたいという要望でございます。

《参加者 さん》

答える前に、済みません。さっきの質問の関連質問で、わかりやすく簡単にお話を申し上げます。屋守の入り口に市の職員が、廃船をいっぱい持って置いて、子供達の通学路でもあり、環境の美化、環境汚染防止のためにも1日も早く船をどけて欲しいというのが私たちの希望で、有価物であるとか、廃棄物であるとか、そんなことを言っているんじゃないんです。他人の土地へ市の職員が船を置いとると、なんとかどけていただきたいと〇〇さんと〇〇の家族にも、ずっと言い続けていますけれども、なかなかやってくれない。

2点目はこの廃船を置かれている土地の地主の方ですね、雑種地になっておりますが、

地主の方が3人ばかりおられます。皆さんに聞いていただきたいのは、この雑種地の税金を、税金だけは地主の方が払っておられます。でも使えないんです、土地は。船が四十数隻、ボロ船がいっぱいあって使えないんです。それをやったのは市の職員なんです。何とか税金を免除していただくというか、地主の人は税金を使えない土地に払っているということ。

3点目はこの事件で屋守の住人たち3軒13人の方々が、〇〇に裁判に訴えられて、いずれも住人の勝訴ということになっておりますが、我々の屋守地区でも1軒当たり5,000円、それは裁判に訴えられたもんだから、それに応訴、反対に戦うということで、1軒当たり5,000円ずつ応援してくださいまして、何とか120万の金が裁判の費用に使われました。地主の関係者の方、今日来られていますが、この方たちも200万円位の金を投じております。それはどういうことかということ、市の職員〇〇が他人の土地に船を置いて、あの土地は自分のもんだと地主の方々3人を訴えられました。この方々も対抗しないと〇〇に土地を盗られてしまうということで、トータルで350万ぐらい、住民が負担した金が120万、あと100万か200万は地主の方が負担している。これは倉敷市の指導力の無さ、市の職員を監督できなかった、コンプライアンスの無さという事で、この3点を是非、何とかお願いをしたいなということで、最近、道路を、今船を置いている所を1メートルばかり広げて下さいましたから、子供たちが、通学路が広がって、朝晩の通学、大変喜んでおりますが、勿論看板が「スピード落とせ、見通し悪い。」という看板も出ています。で、何故か〇〇は道路側に船の頭を持って行って、きわめて見通しが悪く、つい最近も交通事故が起きました。そういうことで倉敷市も少しはやる気を出していただいて、道も広がって、今もう夏休みですけれども、夏休みの前に道が広がって喜んでおりますが、住民とすれば何としてもあの船をのけていただかないと、問題の解決にはならないと。以上でございます。どうも聞いてくださって有難うございました。

#### 《市長》

内容につきましては、良く判っております。市の職員とそれから、その息子さんということでありまして、実際にはなかなか私どもも名義は息子の方ということで、職員ではないので、市の職員の行為というところについての、なかなか難しかった所へ、大きな交通事故を起こしまして、今失職で市の職員ではなくなったんですが、勿論今日もこちらに来る途中に、舗装の確認もしたかったものですので、通りましてちゃんと出来ているのを確認しました。それからあと、財務局の竹も言われていると伺っております、その辺も財務局に申し入れをしたいと思っております。

勿論根本的には、その船がなくなるというのが一番重要なことだとは良く判っております、市からも、これまでも出してありますが、警告とかについて、職員じゃなくなったから何もせんと言うことじゃなくて、地域の皆さんと御相談して、何とか少しずつでも前に進んでいければと思っておりますので、大変有難うございます。

#### 《参加者Iさん》

今の話ですけど。それはお願いですから、その対応の土地は江戸幕府が黒崎村に対して、銀200、2貫目でしたかな、払うからあの土地を使わせてくれと、倉敷の奉行所でそのことは記録されております。倉敷地方裁判所にあったはずですけど、今あるかどうか、写

しは持っていますけど、それ以来ずっと免税の土地なんです。倉敷市長の責任であって、黒崎村あるいは黒崎町の責任なんですけど、そういう土地が黒崎村の随所にございます。現に私の祖父の名義のままのわずかな土地ですけれど、そのまま放ってある。あるいは私の所の庭というか土地にも、そういう土地が道路やったのと交換したのに黒崎村の名義で変えてない。私どもの名義のままの所、倉敷市の名義のまま、私どもが使っている所があるんです。そういう怠慢がこういう問題を引き起こしたんだと思います。そういった意味から、今までそういう経緯から無税になっている訳ですから、それはどうあっても、4人ぐらい地主さんがいらっしゃるわけですけど、そういう経緯で昭和五十何年の水害の時に、そういう所じゃからということで土をあげたわけなんです。これを県がやりました。そこをやった工務店は、玉島にございます。そういうことで地主には黙ってあげて、それを市の執行で均したと。そこへ船を置いたと、こういう経緯です。その記録の写しは私が持つとんですけど、そういう経緯がございますので、これはもう絶対免税にさせていただきますと、それは江戸幕府以来の約束ですから、絶対守ってください。お願いいたします。皆さんよろしいですね、よろしく申し上げます。

《参加者 J さん》

本日は下津井から参加させて頂いております。何故わざわざこんな所へ来たのか、せっかく遠くから来させていただいたんで、一言だけ発言させてもらいたいと思うんですが、目の不自由な私の唯一の夏のレクリエーションが海水浴です。毎年何回も沙美海水浴場に来させていただいております。児島からというと玉野市の渋川海水浴場の倍の距離があります。1時間弱かかります。でもこの沙美海水浴場が大好きです。毎年思うことなんですけど、素晴らしい海浜公園、海水浴場、歴史を紐解きますと明治13年、1880年、地元の開業医坂田待園さんが、海水浴が健康増進、病氣回復に素晴らしいことを提唱し、時の黒崎村の村長さんも支持をされて浜の診療所を建てられた。それがきっかけとなって、明治15年度に日本初の海水浴場として沙美海水浴場は誕生した。そのような素晴らしい歴史と誇り高さ海岸を持っている。泳ぎは得意ですから、漁師の子ですから、平気でブイまでも泳ぎに行くんですけど、私の所からここより半分の距離、時間でいける渋川海水浴場よりもネットやブイで囲まれた遊泳区域内だけでも、面積は数倍あります。浜の広さも。にも関わらず実際の数字はわかりませんが、渋川海水浴場の半分もお客様が来ているようには思えません。また今日は玉島支所長さんも来られていると思うんですけど、今日は黒崎町内会の集まりのような所へ来てしまったんで、こんな話は、場違いな発言になるかなあとと思いながら、沙美海水浴場、黒崎は倉敷市です。倉敷市の人口は玉野市の6倍、7倍でしょう。それが渋川海水浴場の半分も海水浴客がいないというのは、何とさびしいことか。今日は地域力というタイトルがついていると思うので、行政にも色んな問題点があると思います。本当に日本全国が、怠慢政治、怠慢行政で問題点はあると思うんですがだからエールを送りたくて来させてもらいました。こんな素晴らしい日本初の、日本の渚百選に挙げられているような、こんな沙美海水浴場という自然の恵みを頂いたこの黒崎そして玉島、もっともっと地域力という面では、経済効果という話も出ましたんで、防災も勿論大切ですが、私はこういう会に行くといつも思うんですが、ただ単に一方的な行政に対して要望ばかり言うのではなくて、商工会とか色んな所に働きかけて、是非この黒崎からあるいは玉島から、ひいては倉敷市全体から見て、この沙美海水浴場、黒崎と言う素晴ら

しい立地を、この誇り高き歴史あるこの村、町を経済効果の武器にして、倉敷市のために何か、お金なんかを掛けなくても知恵を出せばあると思うんです。それで10億や20億の経済効果はあつという間に出来ると思っています。黒崎、沙美海水浴海岸が大好きでしょっちゅう来てます。今年も、もう3回来ました。家内は車で40～50分掛けて二軒屋スーパーさんに月に何回も来てます。児島のスーパーに行くより多いくらい来てます。大好きなんです。玉島も、黒崎も。こんな連れ合いがいますから、私のような変わり者も、もっともっと変わり者を増やせばいいと思うし、是非今日、玉島支所長さん、聞いておられると思いますけど、是非経済団体とかにもお伝えいただいて、この町からこの玉島から、周辺から「よし、わしがいっちょ、やっつろうじゃないか」というような民間企業なんかも、出てきていただいて政官民一体になって、最高のチャンスの地域だと思うんです、ここは。倉敷市発展のためによそ者が、本当におせっかいですけれども、黒崎こそが、さつき西の玄関と言われましたけれども、倉敷を代表する自然、天然の恵みも経済力も、是非リードする町になっていただきたいと切に願うしだいであります。

#### 《市長》

今日、わざわざ児島から熱い思いを言いに来て下さったと伺っております。言われるように沙美の海岸は、日本最初の海水浴場でもありますし、倉敷市やそれから玉島の商工会議所さんとかも一緒になって、PRをしていかないと、勿論、渋川よりいい海水浴場ですし、しっかりがんばります。皆さんの拍手も大変頂きましたので、しっかりがんばりたいと思います。有難うございました。

#### 《参加者Kさん》

防災の観点で一点、地域力を活かすまちづくりのことで一点お話をして帰りたいと思います。倉敷市民防災ネットワークという、出来まして7～8年、16年の高潮の時から出来ました市民団体と、倉敷のまちづくりをやっております市民団体倉敷街角コンシェルジュに所属しております。今のご意見も本当に胸が熱くなりましたけれど、倉敷は合併、合併を重ねてきて、私たちが生まれ育った玉島、水島、倉敷、児島、真備、船穂という非常に特色のある素晴らしいエリアを持った、世界に誇れるわが町倉敷だと思っています。

防災の点ですけど、何回も台風が来ました高潮、こちらの地区も大変な被害をうけた時から、市民の連携、地元のそれぞれの立場の方々、消防団であるとか、市民防災組織とか、各役職の方々、行政の方々との連携が如何に平常時に出来ているか、そういう点検が出来ているか、何が足りないかを如何にしておく事が、いざという時に役に立つかということ、3月11日以降の報道を見て以降、痛切に感じておられると思います。東北の方々の涙の訴えを聞いても、失って壊されて自分たちの愛する故郷がこんなに大事だったんだと言うことを、東北の方々が、実体験を自分たちが被害を受けて日本中に知らせてくれていると思います。今日は黒崎の方々の生の声を市長さんにぶつける会かなあと思ったんですが、玉島に住んでおまして、倉敷こんな魅力いっぱい町を本当に全国に世界に発信していきたいと思う気持ちで、20年間、本当に市民活動を続けて来ました。

話が元に戻りますが、防災の組織は今私たちが組織している倉敷市民防災ネットワークや、市が募集されて100人あまりの災害ボランティア、社協さんという素晴らしい組織が各地区にありますね。市の防災の危機管理室の課長さんはじめ沢山の方々と連携をとり

ながら、いざという時に力の発揮できる環境作りに取り組んでおります。組織率が多分自主防災組織は、まだ50パーセントを超えてないんじゃないかと。今年これだけ東北の切実な被害を見たら、自分たちの地域は現状で大丈夫であろうかを、最初に発言された方は市の本気度を聞きたいとおっしゃったけれど、本当に住んでいる住民の本気度が問われている。大事なのは自分たちの町は自分たちで守っていこう、お隣近所と力を併せて良くしていこうという熱い思いの連携だと思うので、まだまだ組織が出来ていない所はこれから作っていかれるような動きにもっていかれるといいなあと、願っております。

私も黒崎は毎年、玉島文化協会国際部会のサマーキャンプで使わせていただいて、子供の頃から来ていますし誇りに思う場所です。倉敷百景という素晴らしい宝の中の1つでもあり、海に近いだけ危険度は感じておられると思うので、黒崎の地元の方々は、こういうところの改善点をということ市の方へお話しされたらと思います。

今度秋にカーネーションというドラマが倉敷を舞台にして撮影されたものが10月からオンエアになるんです。朝のテレビ小説が。それで注目も浴びますし、最初の説明でおっしゃった駅北のヨーカドーのあのエリアが始まります。このタイミングも1つの発信されるチャンスだと思いますので、色んな素晴らしい地元ゆかりの方々のパネル写真を1つじゃ足りないと思うので、等身大パネル写真を要所に立てて頂いて、全国の方に倉敷に来ていただくようなアピールを、と思っております。

《市長》

来年は、平清盛が大河ドラマということで、藤戸にも随分お客さんがいらっしゃるのではないかと考えておりますので、そういう所とかも併せて、市全体を発信したいと思えます。大変有難うございます。

《参加者Lさん》

沙美のLです。災害の復旧作業ですか、ここの港の近くが全然出来てない。ここが一番低いんですけど、そこの裏、それをどのくらいの時期にして頂けるのか県に聞いてみて頂きたいと思えます。台風が直ぐ来ると思うんです。

《市長》

判りました。県に聞きます。今日全般的に、防災、安全のお話が、多かったと思えます。最初に言ってくださった災害の市の対応、市民の皆さんの対応ですね、避難場所の面などいろいろ課題があると思っております。市だけでも、市民の皆さんだけでも、出来ることでもないと思えますので、両方で協力をして少しでも良くなる方向に、頑張っていきたいと思っております。

今日は大変貴重なお時間で防災のことをはじめ貴重なご意見を頂きまして、心から感謝申し上げます。どうも有り難うございました。